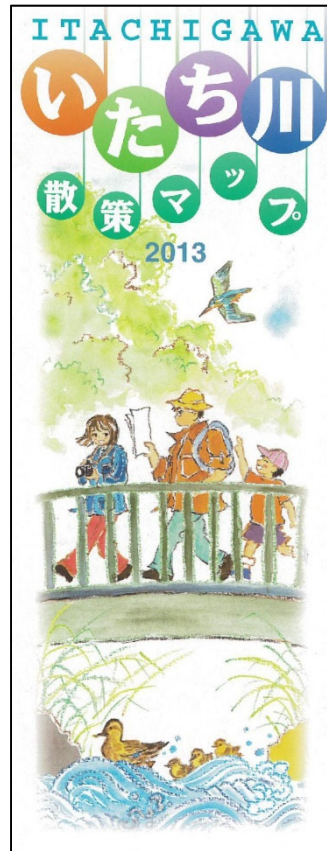


いたちかわらばん

通刊 96 号 鮪川・狹川 / 川原番・瓦版 25 春号



初版 (1996 年)



第4版(2013 年)

【いたち川散策マップ 第1版と第4版】

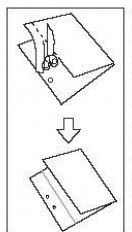
いたちかわらばんを作るにあたって、今まで宗森隊長の版面から始まるのが当たり前になっていきましたが、百号を前に私達はもう一つ大切な編集があったことに気が付きました。それは先日、上郷中学校三年生がいたちかわらばんの編集会議に訪問され、いたち川散策マップを何でつくることになったのか?と質問を受けたことで、「そうだ、いたちかわらばんの先輩となるいたち川散策マップがあったんだ!」と思いつきました。私がかわらばんの事はいつも頭のすみにありましたのがマップのことはコロナウイルス騒動で忘れていました。

一九九六年にいたちかわらばん創刊号の発行に先立っていたち川散策マップの初版を発行し、周辺環境の変化を踏まえて約4年おきに改訂し、現在は第4版まで発行しています。マップを作るにあたって上流から下流まで何度も歩き、源流を探して寄り道をしたことでしょう。木に名前の木札をかけ、草花の名前と場所、季節ごとの鳥、橋の名前、橋から橋の距離、近くのバス停等々、とても作りがいのあるマップでした。マップ片手に散策している方がいて、嬉しくなります。

いたちかわらばんの編集をしたりマップを作ったりする事はとても大変なことでした。約40数年前はドブ川だったいたち川がきれいになり、それが今も保たれていることはとても嬉しいことです。栄区の皆様一度はいたち川のほとりをマップ片手に散歩してみてください。

(草本 和子)

この部分を切り取ってファイルすると便利です



本郷台駅周辺の史跡といたち川の散策

9月17日(火)ウォーキング開催。午前10時天神橋集合。募集参加者16名、いたち川 OTASUKE 隊4名、総勢20名でした。案内はいたち川改修工事に携わった、いたち川 OTASUKE 隊の和久井さんです。「ウォーキング経路図」と「海軍第一燃料廠配置・現在の本郷台駅周辺図」の配布資料をもとにスタートしました。初めに海軍工廠の概要の説明。太平洋戦争後にフィリピンから日本に医療研修に来ていた看護婦さんたちから感謝を込めて贈られたという済生会病院玄関前の記念樹のソテツについて病院改築で移植後も元気に育っていてほっこりする話。

城山橋の区役所寄りにある「いたちかわ」を詠んだ吉田兼好の歌の解説。河川改修工事の際に、米軍に接收される際にいたち川に廃棄された大量の機関銃弾丸と材料の黄燐などが出てきたこと、海軍工廠のこういった太平洋戦争の傷痕に関する記録写真を見せてもらい、改めて生々しく戦争のことを考える貴重な機会となりました。

さらに下流へ、警察学校橋から海里橋へと進み、いたち川東岸には現代アート展示作品がいくつもあり鑑賞をお薦めします。新橋(にいはいし)を西岸に渡ると道標があります。鎌倉街道の上道・中道・下道に分かれて「ぐみょうじ」「つかじゆく」に通じていることが彫られています、隣の延命地蔵尊はもとは飲み水のある場所だったようです。

「いたち川」はここ横浜市栄区のほか大阪市と富山市にあります。以前、富山市との交流会いたち川サミットでは、富山市には今も飲める湧き水の脇に延命地蔵尊が10ヶ所以上あるとのことでした。赤坂川、七石山遺跡、信光社のショールームを見学、長屋門前を通り、ガード下経由、JR 本郷台駅で無事解散となりました。(うめおきな)



鎌倉街道の起点道標の説明

☆いたち川→右支川の散策☆

上川と呼ばれ稲作水田には欠かせない水の供給源として昔は大事にされてきた川です。別名さるた川、上流部は瀬上池を水源としたことにより瀬上川と呼ばれてきました。

日時：令和7年5月20日(火)

集合場所：栄区役所玄関前

集合時間：10:00

区役所裏口→大いたち橋・小いたち橋→右支川→石橋の水辺→本郷石橋→鎌倉街道横断→金神橋→竹後通り(旧名)→長慶寺→鎌倉街道石標→押し切り橋→本郷車庫バス停(解散)

*雨天中止。中止の場合は前日ご連絡いたします。

参加費：100円(保険料等)

持ち物：飲み物、雨具(昼食自由)

参加人数：20名(先着順)

申込要領：参加希望者は、葉書、メール、FAXで氏名・ふりがな・電話番号を明記の上、令和7年5月15日(木)までに下記に応募して下さい。(当日消印有効)

応募先：〒247-0005 栄区桂町303-19 (電話) 894-8161 (FAX) 894-9127 (アドレス) sa-kikaku@city.yokohama.lg.jp 栄区役所区政推進課企画調整係

※内容については、和久井(いたち川OTASUKE隊、080-3498-0552)

発行年月
2025年4月

通刊96号

発行: 狹川 OTASUKE 隊 (いたちがわおたすけたい)

OTASUKE 隊事務局: 栄区役所区政推進課企画調整係 〒247-0005 横浜市栄区桂町303-19
TEL 045-894-8161 FAX 045-894-9127

編集協力: 栄土木事務所下水道・公園係 TEL 045-895-1411 FAX 045-895-1421

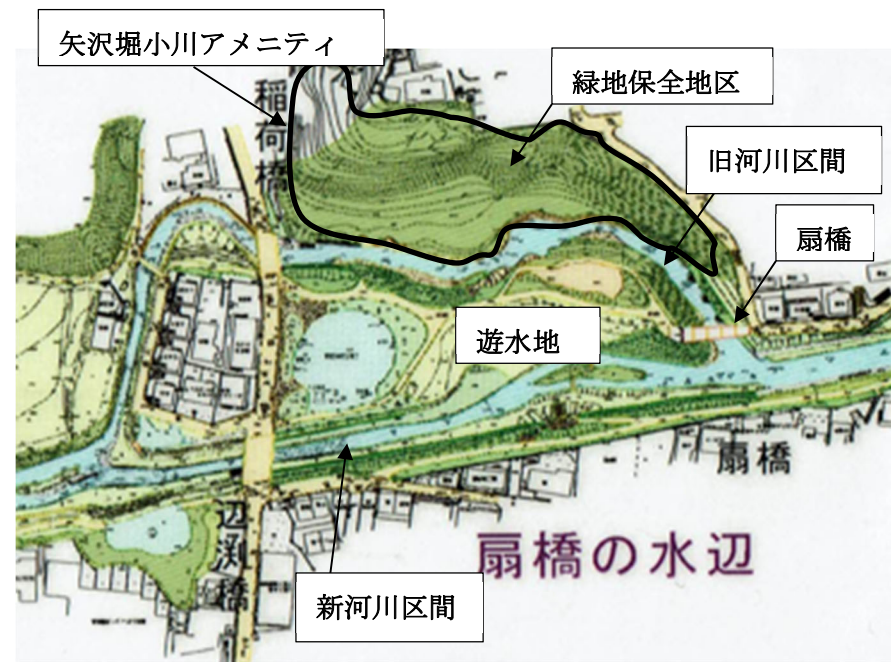
いたち川の自然再生への試み (その3)

日東橋から神戸橋まで上流部はふるさとの川整備事業区間(当初はモデルの名称がついていました)2.5kmの中には水辺拠点が5カ所以上計画されていました。水辺拠点の目的は、浸水対策、洪水対策、動植物保護繁殖対策などが考えられてきました。今回は一番下流部の「扇橋水辺」を紹介いたします。

●扇橋水辺

ふるさとの川整備事業区間の始まりで、旧河川区間には湧水による矢沢堀小川アメニティが流れ込みその下流は小魚が多く生息しています。

生息している魚介類は、モツゴ、アブラハヤ、オイカワ、フナ、ヨシノボリその他、甲殻類はスジエビ、ヌマエビ、手長エビ、アメリカザリガニ、モズクガニが生息しています。貝類ではシジミ、カワニナ、サカマキガイなどです。



●旧河川区間

矢沢堀小川アメニティとの合流部には木工沈床を設置して流れ込む小川に魚道を設けています。川底には無作為に玉石を入れて置き川遊びが出来るように配慮しています。下流部分にはむき出しの関東ローム層があり、そこでは水中の穴にウナギやモズクガニが生息しています。地上部の穴にはカワセミの巣が多数ありますが、河川の淵が形成されているため人が近付けない水深となっています。

●扇橋

水辺広場を作るにあたり、地域の人達とワークショップを行い、行き止まりの住宅地の道路に橋を架ける要望が多く生活道としても役割があることから新設することになり名前も公募によって名付けられました。橋柱の中にはその当時のワークショップに参加した人の写真や設計図などが入っています。何時か開く時が来ることを願っています。

●緑地保全地区

扇橋から矢沢堀小川アメニティに沿って約100m位までの間の斜面の林を河川の一部として保全しています。竹林と広葉樹林によって形成されアオサギ等鳥類のコロニーとなっています。

●新河川区間

本来の河川の構造は表面上の水の流れの他に川底の下に伏流水が流れています(例えば砂漠等で渇水期に表面水がなくなっても川底を掘って動物が水を補給している映像見たことがあると思います)。新河川は伏流水や地下水を人工的に集め、上流の伏流水をも導いている構造となっています。

川底に木杭を打ち込みその間には玉石を詰めて水を集めることで流れを形成しています。辺漕橋の上から川底を見ると整然と並んでいる木杭の頭を見ることが出来ます。(水・人・子)

NHK朝ドラらんまんの植物(その5)

牧野富太郎は植物と心中したと言われています。晩年(82才)に植物に対して「花は黙っているのになぜあんなに綺麗なのか?なぜあんなに快く匂うのか、窓辺にかおる一輪のユリの花を見れば抱きしめなくなる、それでも花は黙っている。牡丹の花はあんなに大きいのに桜の花は小さいのでしょうか?チューリップの花にはどうして赤や白や黄やいろいろのあるのか?松や杉にはなぜ色の花が咲かないのでしょうか。私たちは何の気なしに見過ごしていますが植物は生きているのです。植物は人間の生活に必要なもので、米、麦、野菜、果物、藻の食料品、着物の原料、紙の原料、建築材料、医薬原料すべて植物のおかげです。」と記されています。植物の名前を数多く命名していますが博士は五感を使っています、視覚、聴力、臭覚、味覚、触覚を使って名前を付けていることが解ります。

ヘクソカズラは道ばたや河川敷、草やぶ、林縁などいたるところにごく普通に生えるつる植物です。多年草ですが、何年もたつと茎の下の方が木質化して、藤づるのようになります。葉を揉むと、顔をしかめたくくなるような悪臭があることから、屁、糞の字を当てた名前がつけられました。一方で、花が可愛らしいことからサオトメカズラ(早乙女蔓)、花の真ん中がお灸をすえた後のように丸く赤くなることからヤイトバナ(灸花)の別名もあります。

オオイヌノフグリの「フグリ」とは、犬の陰囊(いんのう)のことをいいます。果実の形が「犬の陰囊=フグリ」に似ていることからこの名が付けられました。実際の果実はハートの形をしています。オオイヌノフグリはもともとヨーロッパが原産で、日本では明治のはじめ(1887年頃)に東京で発見されました。

ニガキ(苦木)はニガキ科ニガキ属の落葉高木の種類です。雌雄異株で、東アジアの温帯から熱帯に分布し、山野に生えます。樹皮、材、枝、葉の部分に強い苦味がある木で、薬用にされ、名前の由来ともなっており、強い抗菌作用や殺虫作用を持つといわれています。主に苦味健胃薬、整腸薬、解熱剤として用いられ、太田胃散などの薬に配合されています。

クサギ(臭木)は日当たりのよい原野などによく見られるシソ科クサギ属の落葉低木・小高木です。和名の由来は、葉に独特の臭いがあることから、若葉は食用や薬用になります。薬用樹としても知られ、花の咲く前の枝葉をとって天日乾燥したものは生薬になり、臭梧桐(しゅうごとう)と称されて高血圧予防、神経痛に対して薬効があるといわれています。

牧野富太郎博士は植物の名前を付けるのに、五感で感じとって庶民的なユーモラスな名前を多くつけておられますので珍しい名前を聞いた時は調べてみてください。

(水・人・子)

編集後記

「ふるさとの川整備事業区間」の扇橋の水辺も完成してから30年が経過して自然環境に馴染んできているように思われます。治水対策の遊水効果も効果を上げている様を次号に行いたいと思います。

『いたち川は未来につながる』 上郷中学校の「自然環境と総合学習」

上郷中学校から、いたち川OTASUKE隊に栄区のいたち川の環境学習講座の依頼がありました。いたち川の河川整備事業や河川全般の講座に続いて、地元の自然環境や安全について追加の講座の要請がありました。三年生が自然環境の総合学習として、いたち川の環境と地域のためにできることを考え、地域の自然探訪を11月13日に計画しているとのこと。生徒たちが主体で内容を決めるといので生徒の意見をよく聞くことを念頭に事前に学校へ伺いました。三年三組は、おおむね課題ごとにグループ編成で行動するという方向で決まったようです。

いたち川OTASUKE隊が提供する資料として、表題を「上郷中学校自然環境学習いたち川探索ルート」とし、学校からいたち川までの地図を入れ、さらに次の①と②を加えました。

①いたち川にある「昇龍橋」は横浜市内で一番古く出来た石橋ということ有名です。現場にある立て看板の解説。

②この季節はいたち川沿いに咲く草花も少ないため、「いたちかわらばん」の特集から、代表的な植物の「クレソン・ガマ・ギンギシ・ヤナギ・アシ・ジュズダマ・アレチウリ・シヨカツサイ・ツリフネソウ・オオバタクサ」、川の生き物として「アブラハヤ・オイカワ・モツゴ・ヨシノボリ・テナガエビ」を抜粋して紹介。

三組の他のグループは区役所に「散策マップ」「いたちかわらばん」の取材や、いたち川水辺愛護会の方に活動を聞くなどを行ったようです。学習発表会ではいたち川への関心が高いことがわかりました。

担任の先生から講座の中に郷土愛の醸成に繋がる話を加えてほしい旨の要請がありました。「うーんこれは難しい」その場で即答できなかったことをお詫びします。地元で地域活動をしている多くの方々や認識を共有し協働している重要なテーマで、地域と学校の交流とふれあいの積み重ねの結果として得られるというものだからです。

いたち川で環境学習してもらい、勉強が面白く楽しくなることが一番大切だと思います。『いたち川は未来に繋がる』ことを祈っています。

(うめおきな)